

|         |            |
|---------|------------|
| 漢法苞徳塾資料 | No. 164    |
| 区分      | 資料・刺法      |
| タイトル    | 『寿夭剛柔』の刺方  |
| 著者      | 八木素萌       |
| 作成日     | 1992.11.10 |

【あ】病在陰之陰者 刺陰之榮輸

〔注〕……内合于五藏六府 外合于筋骨皮膚……在内者 五臟為陰 六府為陽 在外者 筋骨為陰 皮膚為陽

以上の記述から、この条文を考える。

〔解釈〕…『陰の陰にある病』と言うのを「五臓病」と解すると、「五臓の病には、陰經の榮穴と俞穴に刺せ」と見られる。

【い】病在陽之陽者 刺陽之合

〔注〕……上と同じ解釈の立場から見たい。

〔解釈〕…『陽の陽にある病』と言うのを「皮膚」に病があると解される。

故に「皮膚に病があれば陽經の合穴を刺せ」と言う記述と見られる。

【う】病在陽之陰者 刺陰之經

〔注〕……上と同じ解釈の立場から見たい。

〔解釈〕…『陽の陰にある病』は「筋骨にある病」と解される。

「筋骨に病がある場合には陰經の經穴を刺せ」と言う記述と見られる。

【え】病在陰之陽者 刺絡脈

〔注〕……上と同じ解釈の立場から見たい。

〔解釈〕…『陰の陽にある病』は「六府にある病」と解される。「六府に病がある場合には〔絡脈〕を刺せ」と言う記述と見る。ただし問題点は〔絡脈〕の理解である。「浮絡」とか「血絡」と記述されているものと解することが適当だろうと考える。『經脈第10』に記述されている「絡穴」も考慮に入れておくとしても、主要な事は今日言う所の「細絡」と見られる。

【お】病有形而不痛者 陽之類也 無形而痛者 陰之類也 無形而痛者其陽 完而陰傷之也  
急治其陰無攻其陽 有形而不痛者其陰完而陽傷之也 急治其陽 無攻其陰……とある。

〔訓〕 ……病形ありて痛まざるものは陽の類なり 形無くして痛むものは陰の類なり 形無くして痛むものは其の陽完ったくして陰傷らるるなり 急いで其の陰を治し其の陽を攻むる無かれ 形有りて痛まざる者は其の陰完ったくして陽傷らるるなり 急いで其の陽を治して 其の陰を攻むる無かれ…

〔注〕 ……これは病所を攻めると言うことであり、「74難」の記述と等質と言えよう、従って「病の瀉」と言う事になろう。